

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート（自立支援、介護予防、要介護状態等の軽減、重度化防止）

第8期における 具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容 (R4.3月末実績)
<p>【介護予防・健康寿命の延伸、社会参画機会の創出】 高齢者がいつまでも住み慣れた地域でいきいきと暮らすことができるよう、健康寿命の延伸や地域に根差した介護予防を総合的に展開する。</p>	<p>・通いの場の立上げ、又は継続支援を行い通いの場設置数を令和5年度末51か所を目標とする。 ・立ち上がった通いの場の継続的な実施に資するため、また健康寿命の延伸又は介護予防に適切に資することを目的とし、リハビリ職や保健師、看護師などの専門職の派遣を実施。令和5年度末で40件の派遣を目標とする。</p>	<p>・包括支援センター及び生活支援コーディネーターとの連携による立上げ支援等で45か所となった。 ・通いの場に対する継続支援として、地域リハビリテーション活動支援事業での派遣回数33件となった。 全体として新型コロナウイルスの影響により立上げや活動を自粛している団体も散見されることから、新型コロナウイルス感染予防講座などの実施により可能な限り活動が実施できるよう適切な介入が求められる。</p>
<p>【認知症高齢者等への支援】 認知症になっても住み慣れた地域で自分らしい生活が送れるよう認知症施策推進大綱を踏まえ、認知症に対する正しい理解の促進を図りながら、認知症当事者及びその家族の居場所づくりを推進する。</p>	<p>・認知症に対する正しい理解を促進するため、一般の市民のほか、中・高・大学生に対する認知症サポーター養成講座を実施し、さらに認知症当事者やその家族への支援に繋げるため、ステップアップ研修を実施しチームオレンジへの活動につなげる。【ステップアップ研修受講者：令和5年度末12名】 ・認知症当事者及びその家族が気軽に集い、悩み相談や情報交換を行う場として「認知症カフェ」の設置・運営をはじめとした居場所づくりの充実を図る。【認知症カフェ数：令和5年度末2か所】</p>	<p>・ステップアップ講座を受講した認知症サポーターは4名。 ・認知症カフェの設置は既存の1件にとどまってはいるものの、チームオレンジ活動場所として介護事業所との連携を図り認知症普及啓発に取り組んだ。</p>
<p>【認知症対策・認知症予防】 認知症対策の一環として、認知症予防を推進する。</p>	<p>・公文教育研究会学習療法センターのノウハウによる認知症予防教室（活脳教室）を実施し、MMSE等の指標を用いて脳機能の維持・改善を見える化して、認知症患者数の抑制につなげる。 【毎年度成果連動型支払事業における成果指標の達成】</p>	<p>令和3年度の活脳教室成果は、アウトカム指標であるMMSEの維持・改善は実施したすべての会場で達成した。</p>